

皆さまから寄せられた声をカタチに。
ここ半年間で整備された主なものを紹介します。



大網里道踏切(蘇我・今井・若草・南町の境界)の歩道整備



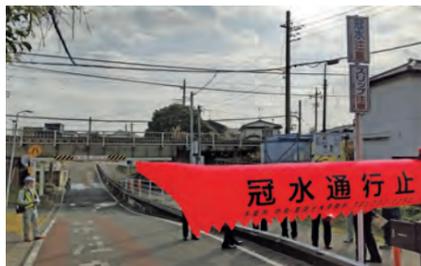
南町宮崎町線の開通へ工事開始
～新年度早い段階で開通見込み



(生実と川戸を結ぶ)生実本納線へ
街路灯(4基)を設置



「アリオ蘇我」前の交差点(国道)
の「誘導線」を再整備



村田町10号線のアンダーパス道路に
エア遮断機を設置



蘇我町線(アンダーパス道路)に
手動式交通遮断機を設置



「サイゼリヤ鶴の森店」脇に
カーブミラーを設置



赤井町公園周辺一帯の
(側溝を含む)道路再整備



大蔵寺小学校脇の路肩を
カラー化

JR蘇我駅及び同駅周辺の整備促進を今こそ!

昨年末、「ジェフユナイテッド市原・千葉」が17年ぶりのJ1昇格を決めました。また、昨年は京葉線の開業50年、(商業アミューズメントの核である)ハーバーシティ蘇我の20周年でもありました。これまでも、「蘇我副都心」最大の地域コンテンツ「ジェフユナイテッド」のホームタウンとして、バスシェルター等へのラッピングやアリーナまでの沿道に風車を掲出する活動などが行われてきましたが、一層のにぎわい創出のため、フラッグ等の掲示を駅東口側に広げることなどを提案してきました。市当局からは「更なる街の魅力向上につながると考え、可能な取組みを検討していく。」との主旨の答弁を得ております。

JR蘇我駅東口ロータリーの再整備や改札口の増設、エスカレーター設置などのバリアフリー化のほか、京葉線とりんかい線の相互直通運転の実現など、副都心にふさわしい駅及び駅周辺の整備促進に積極的に取り組んでまいります。



J1昇格当日のフクアリ(試合前)

市政に関するご意見、ご要望など、みなさまの声をお聞かせください。

千葉市議会議員 **酒井 伸二** | 〒260-0822 千葉市中央区蘇我3-5-14
Tel.090-2910-3925

ホームページは「酒井伸二」で検索ください! <http://www.facebook.com/sakai.cc> e-mail:sakai_chiba@outlook.jp

さかい通信 2026 新春号



今年は千葉開府900年! リニューアルした郷土博物館へ是非!



千葉市は6月1日を「千葉開府の日」、2026年を「千葉開府900年」として位置づけ、千葉市の持つ自然や文化、歴史、地域の魅力など、「地のちから」を市民の皆さまとともに改めて見つめ直すとともに、市の将来像を共有し、新たな時代を切り開くまちづくりに取り組むとしております。昨年11月には、千葉市立郷土博物館がリニューアルオープンとなりましたが、古代から近現代までの通史展示が常設展示として導入されており、郷土・千葉市の歩みを分かりやすく知ることが出来ます。“人と自然とが共生する「陸と海・人とモノを結ぶ」心豊かな千葉市”の創造に向け、この一年も全力で働いてまいります!

千葉市は6月1日を「千葉開府の日」、2026年を「千葉開府900年」として位置づけ、千葉市の持つ自然や文化、歴史、地域の魅力など、「地のちから」を市民の皆さまとともに改めて見つめ直すとともに、市の将来像を共有し、新たな時代を切り開くまちづくりに取り組むとしております。昨年11月には、千葉市立郷土博物館がリニューアルオープンとなりましたが、古代から近現代までの通史展示が常設展示として導入されており、郷土・千葉市の歩みを分かりやすく知ることが出来ます。“人と自然とが共生する「陸と海・人とモノを結ぶ」心豊かな千葉市”の創造に向け、この一年も全力で働いてまいります!



平安時代後期の1126年6月1日、桓武平氏である平高望(たいらのたかもち)の子孫、常重(つねしげ)は、現在の緑区大椎町から中央区亥鼻付近に本拠地を移し、初めて「千葉」と名乗りました。これをもって千葉のまちとしての歴史が始まったとされています。

トピックス

● 中・低所得層へ即効性ある取組みを!

国が決定した補正予算では、冬の電気・ガス代の負担軽減やこども一人当たり2万円の給付などが実施され、その他については重点支援地方交付金を拡充し、各自治体が主体となって地域に応じた対策を講じることとなりました。前年度と比較すると、網羅的な給付や減税がなく、お子さんのいない中・低所得層への支援が薄くなっているため、重点支援地方交付金を効果的に活用し、物価高の柱である食品の購入支援につながる即効性のある取組みをスピーディーに実施しよう、神谷市長に要望しました。(令和7年12月5日)



● 千葉市の「児童手当2万円加算」支給は2月!

国が決定した「物価高対応子育て応援手当」(児童一人あたり2万円支給)については、昨年の12月5日、公明党市議団として早期の実施を要望。同12日には、追加の補正予算案として審議され可決成立しました。これにより千葉市では、児童手当受給者については児童手当支給口座に2月に振り込まれます。令和7年10月1日から令和8年3月31日までに出生した児童については、申請受付後、指定口座に振り込まれます。所得制限等はありません。

令和7年 第4回 定例会 代表質問より

去る12月4日、千葉市議会 令和7年 第4回定例会において、公明党 千葉市議会議員団を代表して質問を行いました。以下に、概要を報告します。

【質問項目】

1. 市政運営の基本姿勢について

- ① 新年度予算編成について
- ② 財政運営について
 - 1) 中期財政運営方針について
 - 2) 有利な起債や基金の運用について
 - 3) 物価高騰対応について
- ③ 災害に強いまちづくりについて
- ④ 超高齢社会への対応について
- ⑤ 交通DXの推進について

2. 総合政策行政 (シェアリングエコノミー)

3. 総務行政 (自治体のDX化)

4. 市民行政 (町内自治会と多様な主体との連携)

5. 保健福祉行政 (ワクチン行政)

録画放映は
こちらから！ →



6. こども未来行政 (ネット犯罪・被害対策)

7. 環境行政 (GXの推進)

8. 経済行政 (観光振興)

9. 都市行政 (オオガハスの魅力発信)

10. 建設行政 (道路冠水対策の強化)

11. 消防行政 (救急体制の強化)

12. 病院行政 (地域と医療の連携推進)

13. 教育行政 (教員のメンタルヘルス対策/ 国際理解教育の推進/ 郷土博物館リニューアル)

財政運営について

今後も金利上昇による公債費負担の増加が見込まれる中、公債費負担を可能な限り抑制する取組みが必要なことから、会派として取組みを促してきたSDGs債(※1)など有利な起債のほか、資産や基金の効果的な運用(※2)による新たな歳入確保の取組みを求めました。

市長からは、「SDGs債はこれまでに計7回、総額で345億円発行し、利子負担を約5,000万円軽減できており、今後も発行を検討していく」「更なる運用益の確保を図ることで、運用利子収入として前年度比で約3億7,000万円増の6億2,000万円を計上しており、引き続き更なる歳入の確保を図る」との答弁がありました。

※1 SDGs債 千葉市では、SDGsの取組みに対する理解促進を図るため、令和5年以降、サステナビリティ債券、ブルー債券、グリーン債券を複数回発行。通常債を発行する場合と比較して低利率な資金調達を行うことができ、地元企業をはじめとした新規投資家の開拓も進めることができました。

※2 資産や基金の効果的な運用 国会において、財源を「創り出す」べく「政府系ファンド(ジャパン・ファンド)」の創設が提案されています。年金積立金管理運用独立行政法人GPIFの運用ノウハウなどを活用し、年間数兆円の運用益を見込むもので、超党派での議論も始まりつつあります。

災害に強いまちづくりについて



昨年8月に作成された啓発パンフレット

阪神淡路大震災から30年を経て、今年には東日本大震災から15年。災害に強いまちづくりの次なるステージとして、能登半島地震などを教訓とした、避難所の環境改善と要配慮者の支援強化が必要であり、特にTKB、いわゆるトイレ、キッチン、ベッドの迅速配備及び福祉関係者との連携強化を求めました。

市長からは、「今年度は災害時のトイレ対策を重点テーマに対応力強化を図るとともに、協定に基づく段ボールベッドやキッチンカー手配など、避難所の生活環境向上を推進していく」「要支援者の個別避難計画の作成継続、福祉関係者との訓練実施など、実効性の向上に向けた取組みを検討していく」との答弁がありました。

※ 災害時のトイレ対策動画 →



超高齢社会への対応について

2025年は、「住み慣れた地域で医療や介護、住まい、生活支援などのサービスを切れ目なく受けられる『地域包括ケアシステム』の構築」において、目標年次とされてきた年であり、本市のその中核施設「あんしんケアセンター」の一層の体制強化を求めるとともに、具体施策の一つとして認知症施策における(外出時の事故やトラブルなど損害賠償責任を負った場合に備える)損害賠償補償制度の導入を求めました。(2024年の全国の行方不明者は18,121人)

市長からは、「あんしんケアセンターの業務量や質に見合った職員の確保などセンター機能を強化する」「認知症の見守りシステム『どこシル伝言板』との連携など、市が認知症損害賠償保険に加入することを検討している」との答弁がありました。

どこシル伝言板の概要

“発見～保護～ご帰宅”まで 安心、安全、迅速に



ネット犯罪・被害対策について

近年は闇バイトや詐欺、誘拐や連れ去り等、SNSを利用した犯罪が増加傾向にあります。これまでもネットパトロールによる取組み強化を求めてきましたが、LINEやDMのような特定の相手との私的な通信は、法令上その対象にはできません。そこで、ネット犯罪・被害防止のための対策について、今後の取組みを問いました。

市長からは、「県警(少年課やサイバー犯罪対策課)等との連携を強化するとともに、児童生徒及び保護者向け『ネット安全教室』を拡充し、啓発の強化に取り組む」との答弁がありました。

交通DXの推進について

近年の路線バスの減便問題もあり、持続可能な公共交通ネットワークの形成が必要です。令和4年度以降、事業継続及び運転手養成等の支援として、毎年約1.5億円の財政支援が行われておりますが、財政的支援の継続には限界があることから、事業者の収益性を高め、交通サービス水準を引き上げる交通DXの推進を求めてきました。交通DXとは、デジタル技術を活用して交通システム全体を革新し、移動の利便性、効率性、持続可能性を飛躍的に向上させようとするものです。将来的には現在実証実験を続けている自動運転やMaaS(※3)につながるもので、市の地域公共交通計画へ位置づけた上で取り組むよう求めました。

市長からは、「自動運転バスは、将来、市内内へ展開していくことも念頭に早期の社会実装を目指して進めているが、MaaSも含め交通DXに関する実証を重ね、交通DXに関する事業者の取組み支援と合わせ、地域公共交通計画に位置付けていく」との答弁がありました。

※3 MaaS 目的地までの移動に必要なすべての交通手段を、一つのアプリやサービスで完結させる仕組み。



幕張で、県内初となる夜間の実証走行を実施